

愛媛県松山市 ^{まつうら しげる}松浦 茂氏所蔵資料 仮目録

広島県立文書館

平成 28 年 (2016) 6 月

凡 例

- 1 本目録には、愛媛県松山市 松浦茂氏所蔵資料を掲載した。
- 2 目録の各項目は次のとおり。

請求記号 本文書群の群番号は (201207) と、この項目の記号を組み合わせたものが請求記号になる。

【例】 1 → 200517/1

表 題 資料の原表題をそのまま採った。
年 代 資料の作成年月日を推測した場合は () 書きで表記した。
作 成 資料の作成者・編著者名を表記した。
形 態 資料の形態を記した。
数 量 資料の点数を記した。
備 考 資料の状態等、特に留意すべき点があれば適宜記した。

- 3 文書の配列は請求記号順とした。
- 4 利用の参考のため、本文書群の概要を冒頭に記した。

【文書群概要】

愛媛県松山市 松浦 茂氏所蔵資料（請求記号 201207）

昭和 18 年 12 月に芦北^{ろほく}開拓団として渡満した松浦明・清子夫妻の手記。

出 所 松浦 茂氏

出所地名 不詳

分 量 1 点（1 冊）

収蔵までの経緯 平成 24 年（2012）8 月 10 日，寄贈者が当館へ持参して寄贈した。

年 代 戦後

歴 史 松浦 明は広島県^{あしな}芦品郡^{あじ}阿字村（現府中市阿字町）の出身で，帰郷時に芦品郡大正・阿字・河佐の 3 村が分村開拓団として渡満する計画を聞かされて入団，家族で昭和 18 年 12 月に満州へ渡り，新民県興隆堡村に入った。明は団本部で物資の調達，配給係として勤務した後，昭和 20 年 7 月下旬に阜新^{しんみん}の部隊に入隊し，国境警備に当たった。終戦により部隊は現地解散し，何とか帰宅したものの，軍隊に復帰させられ，奉天駅からソ連へ向かったが，ソ連で 2 年半捕虜となり，昭和 22 年 7 月下旬に帰国した。開拓団に残った妻清子は，伝染病などで半年間に 4 人の子供を失いながら，帰国した。

内 容 寄贈者の父母である松浦 明・清子夫妻が，自らの体験を書き綴った「芦北^{ろほく}開拓団終末期」1 冊（ペン書き，本文 15 丁）。

検索手段 「広島県立文書館収蔵文書仮目録」

参考文献 『広島県史』近代 2（1981），『広島県満州開拓史』上・下（1989）

（2015.4.25 記述／西村 晃）

201207／1

芦北開拓団終末記

(昭和63頃)

松浦明・同清子

仮綴・1綴

B4版26行罫紙15枚使用, ペン書き
